



病後の体力増強、疲労・倦怠感

知っておきたい
漢方4処方



虚弱体質や慢性疾患、
病後・術後などで
消化機能が衰え、
体力の低下した状態※

消化機能が衰え、四肢倦怠感著しい虚弱体質者の次の諸症
病後の体力増強、食欲不振、夏やせに

41 ツムラ補中益気湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



暑気あたり、下痢
自然発汗、
尿量減少※

暑さによる
全身倦怠・食欲不振、夏やせに

136 ツムラ清暑益気湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



皮膚乾燥、
食欲不振、
口内乾燥感などを
伴う※

疲労倦怠、
病後の体力低下、貧血に

48 ツムラ十全大補湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



微熱、悪寒、咳嗽
などを伴う※

疲労倦怠、ねあせ、
病後の体力低下、食欲不振に

108 ツムラ人參養榮湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

ツムラ補中益気湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

消化機能が衰え、四肢倦怠感著しい虚弱体質者の次の諸症：
夏やせ、病後の体力増強、結核症、食欲不振、胃下垂、感冒、痔、脱肛、子宮下垂、陰萎、半身不随、多汗症

【参考：証に関する情報】 使用目標＝証*

比較的体力の低下した人が、全身倦怠感、食欲不振などを訴える場合に用いる。
1) 虚弱体質、結核症などの慢性疾患で上記症状を呈する場合。
2) 術後、病後、産後、高齢者の虚弱(フレイル)などで衰弱している場合。
3) 咳嗽、微熱、盗汗、動悸などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

ツムラ十全大補湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血

【参考：証に関する情報】 使用目標＝証*

病後、術後あるいは慢性疾患、高齢者の虚弱(フレイル)などで、疲労衰弱している場合に用いる。
1) 全身倦怠感、食欲不振、顔色不良、皮膚枯乾、貧血などを伴うことが多い。
2) 盗汗、口内乾燥感などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。](2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合に

ツムラ人參養榮湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血

【参考：証に関する情報】 使用目標＝証*

病後、術後あるいは慢性疾患、高齢者の虚弱(フレイル)などで疲労衰弱している場合に用いる。
1) 全身倦怠感、顔色不良、食欲不振などを伴うことが多い。
2) 慢性疾患で、微熱、悪寒、咳嗽などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。](2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合に

ツムラ清暑益気湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

暑気あたり、暑さによる食欲不振・下痢・全身倦怠、夏やせ

【参考：証に関する情報】 使用目標＝証*

比較的体力の低下した人で、食欲不振、全身倦怠感を訴える場合に用いる。
1) 軟便、尿量減少、自然発汗、手足の熱感などを伴う場合。
2) いわゆる夏やせ、夏まじに多用される。

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

※使用目標＝証 監修：大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

■ 用法及び用量：通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。※(TJ-108は1日9.0g)
■ 日本標準商品分類番号：875200 ■ 薬効分類名：漢方製剤 ■ 取扱い上の注意：(貯法) しゃ光・気密容器/(使用期限) 容器、外箱に表示
■ 製造販売会社：株式会社ツムラ
・ 組成・性状、その他の使用上の注意(高齢者への投与・妊婦、産婦、授乳婦等への投与・小児等への投与、その他の注意)、包装、関連情報(承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。[使用上の注意]等の改訂には十分ご留意下さい。

(2015年2月制作)
(2017年7月改訂)

PSD005 (審)

2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2) 偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3) ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4) 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{注1)}	発疹、蕁麻疹等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等	

(2014年10月改訂)

は投与を中止すること。(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2) ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3) 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹、蕁麻疹等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等	

(2014年10月改訂)

合には投与を中止すること。(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2) ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3) 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹、蕁麻疹等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等	

(2013年3月改訂)

2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2) ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{注1)}	発疹、蕁麻疹等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等	

(2013年3月改訂)